

標題

～新品種導入による担い手の経営発展に向けて～

石見地区柿品種検討会を開催

(ダイジェスト)

12月1日、JAいわみ中央柿選果場において、石見地区3地域の柿産地で今年から振興していくことになった柿「太天」の品種検討会を島根県果樹研究同志会主催で開催しました。

柿「太天」は、商品性が高く高単価で取引されており、産地再興ビジョンで、有望品種と位置づけています。

今後は、石見地区3地域の柿産地において導入を図り、西条+太天で儲かる柿経営体の育成を目指します。

柿「太天」は、①渋柿で獣害を受けにくいこと、②西条柿の後に収穫出来ること、③単価が高く国内に産地が少ないことから、平成29年にいわみ中央西条柿生産組合の「産地再興ビジョン」の中で導入を計画しており、平成30年に浜田市内の生産者4名が植栽しました。今年、植栽後4年目になり本格収穫を迎えました。これまで、ドライアイス脱渋では、脱渋障害が発生することから本格的導入は見送られてきましたが、農業技術センターで開発した個包装脱渋法により課題がクリアーできたことから、石見地区3産地での導入が進みつつあり、今年度は、認定農業者等の中核的担い手で新規植栽も計画されています。

検討会では、各産地の役員や関係機関から約20名が参加し、先進地の愛媛県視察報告、浜田市での取組状況報告、農業技術センターでの生育状況報告を行った後、試食を行いました。試食には、浜田市産、愛媛産、農業技術センター産の太天を供試し、外観や食味等を意見交換しました。

参加者からは、果実の大きさ（1果重500g以上）、外観の美しさ、西条と違うシャキシャキした食感が好評でした。また、個包装をすることにより商品性が高く、日持ち性も良く、冷蔵することで年末贈答にも使える点が高く評価されました。

検討会の最後には、今後の振興方針について、JA・各農業部・農業技術センターで組織する「太天振興会議」で検討した内容を技術普及部から説明し、生産者の賛同を得ました。

技術普及部としては、今後も引き続き生産者や関係機関と連携し、産地再興ビジョンの作成や中核的担い手の経営発展を支援していきます。

